

» KYODO

# 協同

新時代をひらく協同

— 持続可能な農業と地域社会のために —



特集

JA農産物直売所の  
さらなる活性化に向けて  
～JA農産物直売所の現状と課題～

大会決議実践REPORT

JA兵庫みらいは、子どもやお年寄りが安心して暮らせる地域づくりに貢献するため、見守り活動を行っています。

» 詳細は裏表紙へ

# 主張

## 業務の効率化を進めよう

経営相談部長  
波々伯部 正

最近、JAの人事担当の方から「職員採用が難しくなった」「応募者がいない」との声をよく聞くようになった。「売り手市場」と現在いわれているが、これまでの好景気によるそれとは様相を異にしている。

ご存じのように、日本は少子化が進行し、生まれる子どもは過去最低を毎年更新しており、働ける人の数（いわゆる労働力人口）はどんどん減り続けているのである。ある専門家の話では、今後、労働力不足が解消することはあり得ない、何かの要因で出生率が上昇しても、そのことで労働力不足が解消するのは20年後くらいになるらしい。なるほど、今年生まれた子どもが働き出すのは相当先である。国が働き方改革を進めているのも、限られた労働力を有効に活用する対策の一つといわれている。

日本全体が労働力不足である限り、JAにおいても将来的には職員数は減少していくことになるだろう。このような状況で、これまでと同じように仕事ができるかは疑問が残る。職員数が減少して、同じ仕事を続けることは、職員に大きな負担をかけ、ひいては残業が増え、働き方改革どころではなくなってしまう。人数が少なくなるのであれば、少人数でもできるやり方を工夫することが必要である。

ここまでくると、支店や事業所の統廃合など

ハード面の合理化・効率化を頭に浮かべる人も多いかもしれない。ハード面での対応も否定はしないが、いわゆる業務効率化に取り組むことを提案したい。業務効率化とは、仕事を進めるためのプロセスから無駄なものを省き、よりスムーズに業務ができるようにすることで、生産性を高めていく取り組みである。

JAには、業務効率化がある程度進んだ部分とそうでない部分があると思っている。「うちのJAでは昔からこうすることになっている」という固い信念のもと、何十年も続いているものはないだろうか。同じ結果、いやより高い結果を出せる効率的な仕事の手順がほかにあるのではと思う。

業務効率化にはいくつかの視点があり、無駄な業務の見直し、職場環境の整備、属人的仕事のチーム化、アウトソーシング、ITの活用、職員研修などが挙げられるが、県内において、RPA (Robotic Process Automation) による業務の効率化・自動化の取り組みを進めるJAも出てきた。業務効率化が進めば、仕事の生産性は上がり、職員一人一人にとってより良い職場になるはずである。皆が担当している仕事を今一度見直すことが大切であり、そうすれば自然と業務の効率性は上がるだろう。

### CONTENTS

2019  
NOVEMBER

# 11

JAグループ兵庫

## 協同

本誌は、JAグループ兵庫ホームページの役員専用ページでもご覧いただけます。

02

**主張**  
業務の効率化を進めよう  
経営相談部長 波々伯部 正

03

**特集**  
JA農産物直売所のさらなる活性化に向けて  
JA農産物直売所の現状と課題  
宮農支援部

07

**事業インフォメーション**  
信連／全農兵庫／共済連兵庫／厚生連

11

**兵庫JCC通信**  
生協連／漁連／協同組合コラム

12

**協同セミナー**  
「農協改革」を超えて、新たな農協像と制度環境づくりを  
立命館大学招聘教授 滋賀県立大学名誉教授 増田佳樹

14

**職場通信**  
みんなでJAのファンづくり  
JA兵庫六甲  
伊川支店

15

**数字で見るJA・農業**  
県内JAの事業実績について  
―兵庫農協同組合要覧―

裏表紙

**大会決議実践REPORT**  
JA兵庫みらい



耕そう、大地と地域のみらい。

# 大会決議実践REPORT

～ 持続可能な農業と地域社会のために ～

／ 今月は ／  
JA兵庫みらい

第34回兵庫県JA大会(平成30年11月)では「新時代をひらく協同」をメインテーマとして、JAグループ兵庫が今後取り組むべき事項を決議しました。地域の実態に応じてこの大会決議を実践するJAの取り組みを、SDGsを交えて紹介します。



## 子どもやお年寄りへの見守り活動による地域貢献活動



地域を走る「みまもり実施中」ステッカーの公用車



市民救命士養成講習会で万が一の対処を学ぶ

JA兵庫みらいでは、行政機関と連携して地域の人々が安心して暮らせるように、職員による「みらいみまもり隊」「高齢者みまもり隊」を結成し、子どもやお年寄りを対象とした見守り活動を行っている。

「みらいみまもり隊」では、子どもたちへの見守り活動として、小学生が登下校する時間帯に支店近くの横断歩道で安全確保をしながら声掛けをする旗振り運動を行っている。地域の自治体ボランティアや小学校の教員らと共に、現在、3つの支店で職員が交替で活動している。道路での危険から子どもを守ることはもちろん、地域の人と気軽に声を掛け合える関係をつくり、事件が起こるのを未然に防ぐことも目的だ。活動中は、みまもり隊らと小学生が互いに笑顔で気持ちのいいあいさつを交わす。また、JA全体の取り組みとして、公用車に「みまもり実施中」のステッカーを貼って、地域ぐるみで防犯意識

を高めている。

一方、「高齢者みまもり隊」は、主に一人暮らしのお年寄りを見守る活動を行っている。この活動は、JA職員が渉外活動で地域住民宅へ訪問することを生かして、加西市、小野市、三木市との協定に基づき、訪問宅の様子や会話等を通じて異常がないかを観察し、もし異変があれば行政機関へ連絡する仕組みとなっている。

また、職員が万が一の事態に対応できるよう、職員研修として年に一度、市民救命士養成講習会を開催している。各部門の職員や新入職員が参加し、市の消防職員を講師として救命のための技術を実践的に学び、職員の「何かあったら自分が助ける」という意識を醸成している。

地域に根差した協同組合として、見守り活動を通じた地域貢献活動を今後も継続していく。



SDGs(エスディーゼーズ)とは

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。貧困に終止符を打ち、地球を保護し、全ての人が平和と豊かさを楽しむことができるようにすることを目指して、2015年、国連で採択された。「17の目標」と「169のターゲット」で構成されており、実現のために、先進国、途上国、政府、企業など、全ての関係者による連携した行動が求められている。